

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-251486

(43)Date of publication of application : 22.09.1997

(51)Int.Cl. G06F 17/60

(21)Application number : 08-057973

(71)Applicant : INO RYOICHI

(22)Date of filing : 14.03.1996

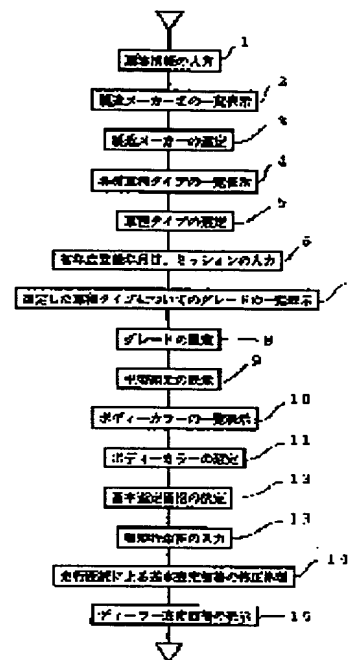
(72)Inventor : INO RYOICHI

## (54) EVALUATION ASSESSMENT PRICE PROCESSING METHOD AND DEVICE FOR USED CAR

### (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To enable anyone to easily calculate a proper dealer assessment price in a short time by deciding one of basic assessment prices which are previously set based on the maker name, type, model, year and body color of a used car and then stored based on the maker name, type, model, registered date of the first year, mission, grade and body color of the assessment object car set at the dealer side and then correcting the decided basic assessment price by the various data such as the total distance traveled, etc., that show the present condition of the car.

**SOLUTION:** A basic assessment price (12), i.e., an even remaining price set from the price of a new car is decided (11) based on the type (7), grade (8) and body color of an assessment object car. If the distance traveled (13) of the object car is smaller than the standard distance traveled of the car of the corresponding type, an amount set previously per unit distance traveled of a prescribed under-travel mode is added to the basic assessment price. On the other hand, an amount set per unit distance traveled of a prescribed over-travel mode is subtracted from the basic assessment price when the distance traveled of the object car is larger than the standard distance traveled. Thus the correction processing are carried out (14) to the basic assessment price.



### LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-251486

(43) 公開日 平成9年(1997)9月22日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

G 0 6 F 17/60

識別記号

庁内整理番号

F I

G 0 6 F 15/21

技術表示箇所

D

審査請求 未請求 請求項の数10 O L (全 17 頁)

(21) 出願番号 特願平8-57973

(22) 出願日 平成8年(1996)3月14日

(71) 出願人 393031243

伊野 良一

東京都杉並区方南2丁目4番7号

(72) 発明者 伊野 良一

東京都杉並区成田東1丁目25番8号

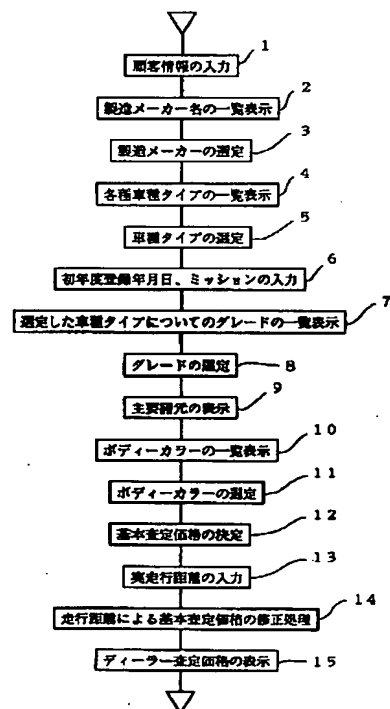
(74) 代理人 弁理士 大塚 明博 (外1名)

(54) 【発明の名称】 中古車の評価査定価格の処理方法及び中古車の評価査定価格の処理装置

(57) 【要約】

【課題】 メーカー名、車種、タイプ、年式、ボディーカラーに基づいて査定された予め記憶されている基本査定価格の中からディーラーが持ち込んだ査定対象車のメーカー名、車種、タイプ、初年度登録年月日、ミッション、グレード、ボディーカラーによって基本査定価格を決定し、該決定した基本査定価格を、総走行距離等の査定対象車の現況を示す諸データによって修正して適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出できるようにする。

【解決手段】 新車価格からの均一な残存価格である基本査定価格を、査定対象車の車種タイプ、グレード、ボディーカラーによって決定し、査定対象車の走行距離が当該車種タイプの標準走行距離と比較して、少ない場合には予め設定されている少走行時の単位距離当りの金額を加算し、多い場合には予め設定されている過走行時の単位距離当りの金額を減算して更に修正処理するようにする。



**【特許請求の範囲】**

【請求項1】 下取り又は買取り中古車の評価査定を行うに当り、該査定対象車の製造メーカーを特定し、前記査定対象車のメーカーの各種車種タイプの中から前記査定対象車の車種タイプの選択を行い、前記査定対象車の初年度登録年月日とミッションとを特定し、査定対象車の車種タイプと同一の車種タイプについて査定対象車の初年度登録年月日当時発売されていた各種グレードの中から前記査定対象車のグレードを選定し、当該中古車の前記初年度登録年月日とミッションとグレードによって当該査定対象車の年式を決定し、前記査定対象車の年式及びグレードの中で査定対象車種の初年度登録年月日当時発売されていた各種ボディカラーの中から前記査定対象車のボディカラーを特定し、該ボディカラーの相違によって決定される前記査定対象車の基本査定価格を求め、さらに、前記査定対象車の走行距離が当該車種タイプの標準走行距離と比較して、少ない場合には予め設定されている少走行時の単位距離当りの金額を加算し、多い場合には予め設定されている過走行時の単位距離当りの金額を減算して前記基本査定価格を修正処理し、ディーラー査定価格を決定するようにした中古車の評価査定価格の処理方法。

【請求項2】 査定対象車のメーカー名を選定するメーカー名選定手段と、前記メーカー名選定手段において選定したメーカー名に基づいて該メーカーの現在発売している車種及び過去に発売した車種のタイプを選定する車種タイプ選定手段と、前記車種タイプ選定手段において選定した車種に対する査定対象車を特定するための処理条件を入力する処理条件選定手段と、前記処理条件選定手段に基づいて入力した処理条件にあったグレードを選択するグレード選択手段と、前記グレード選択手段に基づいて選択したグレードに合った査定対象車の主要な諸元を表示する査定対象車主要諸元表示手段と、前記査定対象車主要諸元表示手段に基づいて選定される車の複数のボディカラーの中から査定対象車のボディカラーを選択するボディカラー選択手段と、前記ボディカラー選択手段によって選択されたボディカラーの査定対象車の現況情報を入力する現況情報入力手段と、前記現況情報入力手段によって入力された査定対象車の現況情報に基づいて下取りの査定額を演算して確定し表示する確定下取り査定額表示手段とによって構成してなる中古車の評価査定価格の処理装置。

【請求項3】 上記処理条件選定手段における処理条件は、初年度登録年月日と、ミッションである請求項2記載の中古車の評価査定価格の処理装置。

【請求項4】 上記現況情報入力手段における現況入力情報は、査定対象車の使用期間、使用頻度、使用程度、外観の状態、内装の状態、特別仕様の状態、タイヤの摩耗の状態、事故歴の有無、機関足回りの状態のいずれか1又は2以上である請求項2又は3記載の中古車の評価

査定価格の処理装置。

【請求項5】 上記現況入力情報の使用期間は、上記査定対象車の初年度登録年月日から査定日までの時間である請求項4記載の中古車の評価査定価格の処理装置。

【請求項6】 上記現況入力情報の使用頻度は、上記査定対象車の走行距離が当該車種タイプの標準走行距離と比較して少ない場合を少走行、多い場合を過走行としたものである請求項4又は5は記載の中古車の評価査定価格の処理装置。

【請求項7】 上記現況入力情報の使用程度は、丁寧に乘っていたか否かである請求項4、5又は6は記載の中古車の評価査定価格の処理装置。

【請求項8】 上記現況入力情報の外観の状態は、ボディの破損、ボディの塗装の良否、下回りの腐食の有無・大小、ガラス関係の傷・破れの有無、電装関係の良否のいずれか1又は2以上である請求項4、5又は6記載の中古車の評価査定価格の処理装置。

【請求項9】 上記現況入力情報の内装の状態は、シートの破損の有無、インパネ関連の良否、電装関係の良否、室内の臭気の有無、トランクの汚れの有無のいずれか1又は2以上である請求項4、5、6又は7記載の中古車の評価査定価格の処理装置。

【請求項10】 上記現況入力情報の特別仕様の状態は、アルミホイールか否か、オーディオ関係の高級化、カーナビゲーションの有無、ドレスアップの有無のいずれか1又は2以上である請求項4、5、6、7又は8記載の中古車の評価査定価格の処理装置。

**【発明の詳細な説明】****【0001】**

【産業上の利用分野】 本発明は、中古車の評価額を査定するときの査定価格の処理方法及び装置に関する。

**【0002】**

【従来の技術】 経済事情の変化に伴い自動車産業は拡大し、それに伴い中古車市場も肥大化している。このように中古車市場が大きくなった今日、中古車の適正な価額を知ることが中古車業者及び需要者においても強く望まれているところである。このため、種々なる条件を基礎として設定された中古車の基準となる価額を表にした冊子が業者向けに発行され、また需要者向けとして各種自動車関係雑誌等に掲載されている。かかる中古車価額の設定は、年式、仕様、グレードの他にその時の人気度合いをも基礎として冊子から捜し出すようになっている。

**【0003】**

【発明が解決しようとする課題】 このような冊子は、中古車業者（ディーラー）が一般ユーザーから中古車を引き取る際の査定価格を決定するときに用いるものである。このため、この冊子では、メーカー毎、車種毎、タイプ毎、年式毎、仕様毎、グレード毎、ボディカラー毎に分類されて価格が設定されている。そこで、一般ユーザーが中古車業者に中古車を売るため持ち込んだ場

合、中古車業者は持ち込まれた査定対象車のメーカー名、車種、タイプ、年式、仕様、グレード、ボディーカラーを特定して、この冊子に纏められている表から該当する車の基本査定価格（車を単なる物品として算出した新車価格からの残存価格）を決定し、その時の人気の度合い、走行距離の相違、各種部品の傷み具合等査定者の特別加減算額を加味して査定対象車の最終査定価格を決定していた。

【0004】この冊子は、掲載されている自動車のメーカー数が9社に及び、各メーカーにおける車種数、その各車種におけるタイプ数、その各タイプにおける発売年式数、その各発売年式におけるグレード数、さらに、その各グレードにおけるボディーカラー数も多岐に亘り、それに伴って査定項目が多くなっている。しかし、この冊子は、中古車業者（ディーラー）向けに作成されており、中古車業者が初めて使用する場合（初心者）であっても分かりやすく作製されている。そして、この冊子は、細かく査定内容が決められており、これらの査定内容を間違いなく特定していくと、初心者にも時間を掛ければ正確な査定額を算出することができるようになっている。ところが、この冊子は、初心者にも正確な査定額を算出でき、誰が査定しても正確な査定額を算出できるようにするため、査定項目が多くしてあるため細かく表示されており、冊子を見るととき相当注意しないと間違っただ箇所を見えてしまうことがあり、冊子の表の見間違いをすると中古車の下取り評価額を正しく査定できず、標準査定より高く査定したり、標準査定より低く査定したりして、査定対象車の中古車価格が正確に査定されないことがある。

【0005】本発明の目的は、メーカー名、車種、タイプ、年式、ボディーカラーに基づいて査定された予め記憶されている基本査定価格の中からディーラーが持ち込んだ査定対象車のメーカー名、車種、タイプ、初年度登録年月日、ミッション、グレード、ボディーカラーによって基本査定価格を決定し、該決定した基本査定価格を、総走行距離等の査定対象車の現況を示す諸データによって修正して適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出できるようにしようということにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】本願請求項1に記載の発明は、下取り又は買取り中古車の評価査定を行うに当たり、該査定対象車の製造メーカーを特定し、前記査定対象車のメーカーの各種車種タイプの中から前記査定対象車の車種タイプの選択を行い、前記査定対象車の初年度登録年月日とミッションとを特定し、査定対象車の車種タイプと同一の車種タイプについて査定対象車の初年度登録年月日当時発売されていた各種グレードの中から前記査定対象車のグレードを選定し、当該中古車の前記初年度登録年月日とミッションとグレードによって当該査

定対象車の年式を決定し、前記査定対象車の年式及びグレードの中で査定対象車種の初年度登録年月日当時発売されていた各種ボディーカラーの中から前記査定対象車のボディーカラーを特定し、該ボディーカラーの相違によって決定される前記査定対象車の基本査定価格を求め、さらに、前記査定対象車の走行距離が当該車種タイプの標準走行距離と比較して、少ない場合には予め設定されている少走行時の単位距離当りの金額を加算し、多い場合には予め設定されている過走行時の単位距離当りの金額を減算して前記基本査定価格を修正処理し、ディーラー査定価格を決定しようとしたものである。したがって、誰にでも簡単に短時間で適正なディーラー査定価格を算出することができる。

【0007】本願請求項2に記載の発明は、査定対象車のメーカー名を選定するメーカー名選定手段と、前記メーカー名選定手段において選定したメーカー名に基づいて該メーカーの現在発売している車種及び過去に発売した車種のタイプを選定する車種タイプ選定手段と、前記車種タイプ選定手段において選定した車種に対する査定対象車を特定するための処理条件を入力する処理条件選定手段と、前記処理条件選定手段に基づいて入力した処理条件にあったグレードを選択するグレード選択手段と、前記グレード選択手段に基づいて選択したグレードに合った査定対象車の主要な諸元を表示する査定対象車主要諸元表示手段と、前記査定対象車主要諸元表示手段に基づいて選定される車の複数のボディカラーの中から査定対象車のボディカラーを選択するボディカラー選択手段と、前記ボディカラー選択手段によって選択されたボディカラーの査定対象車の現況情報を入力する現況情報入力手段と、前記現況情報入力手段によって入力された査定対象車の現況情報に基づいて下取りの査定額を演算して確定し表示する確定下取り査定額表示手段とによって構成したものである。したがって、ディーラーに持ち込まれた査定対象車のメーカー名、車種、タイプから予め記憶されている基本査定価格を決定し、査定対象車の処理条件、グレード、ボディーカラー、走行距離等の査定対象車の現況を示す諸データを入力するだけで基本査定価格を修正して適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0008】本願請求項3に記載の発明は、処理条件選定手段における処理条件を、初年度登録年月日とミッションによって構成したものである。したがって、ディーラーに持ち込まれた査定対象車の年式、ミッションを特定することができる。

【0009】本願請求項4に記載の発明は、現況情報入力手段における現在入力情報を、査定対象車走行距離、外観の状態、内装の状態、特別仕様の状態、タイヤの摩耗の状態、事故歴の有無、機関足回りの状態のいずれか1又は2以上によって構成したものである。したがって、ディーラーに持ち込まれた査定対象車の現況を正確

に把握することができ、査定対象車の現況に基づく適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0010】本願請求項5に記載の発明は、現況入力情報の使用期間は、上記査定対象車の初年度登録年月日から査定日までの時間によって構成したものである。したがって、ディーラーに持ち込まれた査定対象車の使用期間を正確に把握して、査定対象車の使用期間に基づく適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0011】本願請求項6に記載の発明は、現況入力情報の使用頻度は、上記査定対象車の走行距離が当該車種タイプの標準走行距離と比較して少ない場合を少走行、多い場合を過走行としたものである。

【0012】したがって、ディーラーに持ち込まれた査定対象車の使用頻度を正確に把握して、査定対象車の使用頻度に基づく適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0013】本願請求項7に記載の発明は、現況入力情報の使用程度を、丁寧に乗っていたか否かによって構成したものである。したがって、ディーラーに持ち込まれた査定対象車の使用程度を正確に把握して、査定対象車の使用程度に基づく適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0014】本願請求項8に記載の発明は、現況入力情報の外観の状態を、ボディーの破損、ボディーの塗装の良否、下回りの腐食の有無・大小、ガラス関係の傷・破れの有無、電装関係の良否のいずれか1又は2以上によって構成したものである。したがって、ディーラーに持ち込まれた査定対象車の使用環境を正確に把握して、査定対象車の使用環境に基づく適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0015】本願請求項9に記載の発明は、現況入力情報の内装の状態を、シートの破損の有無、インパネ関連の良否、電装関係の良否、室内の臭気の有無、トランクの汚れの有無のいずれか1又は2以上によって構成したものである。したがって、ディーラーに持ち込まれた査定対象車の車室内の使用状態を正確に把握して、査定対象車の車室内の使用状態に基づいた適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0016】本願請求項10に記載の発明は、現況入力情報の特別仕様の状態を、アルミホイールか否か、オーディオ関係の高級化、カーナビゲーションの有無、ドレスアップの有無のいずれか1又は2以上によって構成したものである。したがって、ディーラーに持ち込まれた査定対象車のアルミホイールか否か、オーディオ関係の高級化、カーナビゲーションの有無、ドレスアップの有無を正確に把握して、査定対象車の特別仕様状態に合った適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で

算出することができる。

【0017】

【発明の実施の形態】以下、本発明に係る実施の形態について説明する。図1、図2には、本発明に係る中古車の評価査定価格の処理方法及び中古車の評価査定価格の処理装置の一実施の形態が示されている。本発明に係る中古車の評価査定価格の処理方法は、コンピュータによって処理されるもので、図1には、本発明に係る中古車の評価査定価格の処理方法の一実施の形態を示す査定処理フローチャートが示されている。

【0018】図において、ステップ1において、まず、査定対象車（中古車）の査定を依頼してきた顧客者の氏名、住所等、査定する業者（ディーラー）の名称、査定年月日、査定担当者、下取りか買取りかの区別、査定担当者の所属等、顧客情報の入力を行う。これは売手・買手を特定するためのものである。ステップ1において顧客情報の入力を行うと、ステップ2において、予め記憶されている製造メーカー名（トヨタ、ニッサン、三菱、ベンツ、BMW等の車の製造販売を行ったメーカー）を一覧に表示する。ステップ2における一覧表示された製造メーカー名の中からステップ3において、査定対象車の製造メーカー（例えば、トヨタ）を選定する。

【0019】ステップ3において製造メーカーの選定（トヨタを例にとる）を行うと、ステップ4において、査定対象車の車種タイプ（例えば、車種：セルシオ、タイプ：セダン、車種：クラウン、タイプ：4ドアハードトップ、車種：クラウン、タイプ：セダン、等）を一覧に表示する。このステップ4における査定対象車の車種タイプの一覧に基づいて、ステップ5において、査定対象車の車種タイプ（例えば、クラウン、4ドアハードトップ）を選定する。

【0020】次に、ステップ6において、処理条件すなわち初年度登録年月日（査定対象車の登録年月日）、ミッション（オートマか、マニュアルか）の入力を行う。この初年度登録年月日（例えば、平成6年2月2日）の入力によって査定対象車と同一の車種タイプについて査定対象車の初年度登録年月日当時発売されていた各種グレードが推定される（初年度登録年月日だけでは、同一車種についてマイナーチェンジがなされた場合、旧タイプか新タイプか不明な場合がある）。そこで、ミッション（例えば、オートマ）を入力することによって、査定対象車の初年度登録年月日当時発売されていた車種タイプの各種グレードが決定され、査定対象車の年式が確定する。ステップ6において、処理条件を入力すると、ステップ7において、特定した査定対象車と同一の車種タイプについての各種グレード（例えば、トヨタ・クラウン・4ドアハードトップの場合は、RサルーンG マルチV、RサルーンG等）を一覧に表示する。このステップ7において各種グレードが一覧表示されると、ステップ8において、この一覧表示された各種グレードの中か

ら査定対象車のグレード（例えば、RサルーンG）を選択入力する。

【0021】このように査定対象車の製造メーカー名、車種タイプ、初年度登録年月日及びミッション、グレードの選定を行うと、ステップ9において、査定対象車の主要諸元を表示する。主要諸元というのは、製造メーカー名（例えば、トヨタ）、車種タイプ（例えば、クラウン、4ドアハードトップ）、発売年月日（例えば、平成6年1月）、排気量（例えば、3000cc）、エンジン種類（例えば、DOHC）、燃料供給装置（例えば、EFI）、駆動装置（例えば、2WD）、ドア数（例えば、4ドア）、グレード（例えば、RサルーンG）、形式（例えば、E-JZS145）、定員（例えば、5人）、ミッション（例えば、4A；フロア4速オートマチック）、新車価格（例えば、4185千円）等である（他に、過給器、屋根形状がある）。

【0022】ステップ9において表示された査定対象車の主要諸元の内容を確認すると、ステップ10において、査定対象車と同一の車種タイプの車として発売された当時の各種ボディカラーを一覧に表示する。このボディカラーは、査定対象車として特定した平成6年1月に発売されたトヨタ・クラウン・4ドアハードトップの場合、ウォームグレーパールマイカ（通称、グレーパール）、シルキーエレガントトーニング（通称、シルキーホワイト）、スーパーホワイト（通称、ホワイト）、ダークフォレストトーニング（通称、ダークグリーンツートン）、ダークブルーイッシュグレーメタリック（通称、ダークブルーメタリック）、ダークブルーマイカフタロシアン（通称、ダークブルー）、ブラック（通称、ブラック）の7種類である。

【0023】このステップ10においてボディカラーが一覧表示されると、ステップ11において、この一覧表示された各種ボディカラーの中から査定対象車のボディカラー（例えば、スーパーホワイト）を選択入力する。車は、同じ車種タイプ・グレードであってもボディカラーによって人気の度合いが異なり、人気ボディカラーの場合には需要が多く、不人気ボディカラーの場合には需要が少ないといったように売れ行きに大きく影響する。このため、ボディカラーの相違によって人気ボディカラーの場合には査定価格が高くなり、不人気ボディカラーの場合には査定価格が低くなるといったように査定価格にそれぞれ差が生じてくる。

【0024】ステップ11において査定対象車のボディカラーを選択入力すると、ステップ12において、同一のメーカー・車種タイプ・年式・グレードについて、各ボディカラー別に予め設定され記憶された基本査定価格の中から査定対象車のボディカラーに対応した基本査定価格を決定する。このステップ12において査定対象車の基本査定価格を決定するとステップ13において、査定対象車が初年度登録年月日から査定時まで

に走行した総走行距離を入力する。車には、それぞれメーカー・車種タイプ・年式・グレード別に基準走行距離（発売日から査定時までの各月間平均走行距離を積算して算出された平均総走行距離）があり、この基準走行距離より多く走行すれば、車はそれだけ傷むことが予想され、この基準走行距離より少なく走行すれば、車の痛みはそれだけ少ないことが予想される。そこで、ステップ13において査定対象車の総走行距離の入力があると、ステップ14において、入力された総走行距離と査定対象車と同車種タイプの基準走行距離と比較して、査定対象車の総走行距離が、査定対象車と同一の車種タイプの基準走行距離と比較して、少ない場合には予め設定されている少走行時の単位距離当りの金額を加算し、多い場合には予め設定されている過走行時の単位距離当りの金額を減算し、基本査定価格を修正し、ステップ15においてディーラー査定価格として表示する。本実施の形態においては、査定対象車の初年度登録年月日が平成6年2月2日となっているが、同じメーカー・車種タイプ・年式・グレードであっても初年度登録年月日が例えば平成6年11月2日の車とでは当然に総走行距離が異なり、この場合には、月間平均走行距離によって修正を加えている。

【0025】したがって、本実施の形態によれば、データの入力を間違いなく、正確に行うことにより、誰にでも簡単に短時間で適正なディーラー査定価格を算出することができる。

【0026】図2には、本発明に係る中古車の評価査定価格の処理方法を実現するための中古車の評価査定価格の処理装置の一実施の形態の基本構成が示されている。図において、20はCPUで、21はROM、22はRAM、23はI/O、24は入力装置、25はディスプレイ、26は各機器を接続するバスラインである。CPU20は、不揮発性メモリーで、入力装置24からI/O23を介して入力される入力信号に基づいて駆動するもので、入力装置24の操作によって必要なデータをROM21から読み出してディスプレイ25上に表示したり、入力装置24から入力されるデータをRAM22に格納したり、ROM21内のデータとRAM22内のデータとから必要な演算を行うものである。

【0027】ROM21は、各種データを予め記憶しておくもので、ROM21には、

- (1) 現存の日本の自動車メーカー9社の名称
- (2) 各メーカーの現在発売している車種及び過去7年以内に発売した車種と、そのタイプ
- (3) 各車種毎の型式
- (4) 各型式毎のグレード
- (5) 各グレード毎のボディカラー
- (6) 各ボディカラー毎の基本査定価格
- (7) 各車種タイプ毎の基準走行距離
- (8) 各車種タイプ毎の月間走行距離

(9) 各車種タイプ毎の少走行時の単位距離当りの加算金額及び過走行時の単位距離当りの減算金額

(11) タイヤの摩耗の単位分当りの減算額が記憶されている。RAM22は、揮発性メモリーで、入力装置24から入力したデータを格納すると共に、入力装置24から入力したデータに基づき演算した結果を格納する機能を有し、書き替え可能に構成されている。I/O23は、入力装置24とCPU20とを接続するインターフェイスである。

【0028】入力装置24は、データを書き込んだり、ROM21に記憶されているデータをCPU20に読み出させてプログラムを実行させたり、書き込んだデータに基づいてCPU20に演算処理させたり、CPU20で演算処理した結果をRAM22に書き込ませたりする入力機器である。この入力装置24は、キーボードでキー入力する方法、マウスでカーソルを移動して画面表示項目から選択入力する方法がある。また、さらに入力装置24は、必要項目を記入した読取りスキャナーによる方法があり、この読取りスキャナーの場合は、車検証を読取りスキャナーで読み取らせる方法がある。この車検証を読み取らせる方法は、車検証をスキャナーに掛けることによって、車検証から顧客者の氏名、住所、査定対象者の型式（例えば、E-JZS145）、登録番号（例えば、練馬利33 3333）、車体番号（例えば、8888888）、排気量（例えば、3000cc）、ミッション（例えば、4A）、駆動装置（例えば、2WD）、初年度登録年月日（例えば、平成6年2月2日）を読み取るようにしたものである。また、読取りスキャナーの場合は、車検証以外に特製の査定書、マークシート等によっても可能である。ディスプレイ25は、ROM21から読み出したデータを表示したり、CPU20で演算処理した結果を表示したりする表示装置である。バスライン26は、CPU20とROM21を、CPU20とRAM22を、CPU20とI/O23とを接続する接続線である。

【0029】このように構成されるシステムにおいて、システムを立ち上げると、ディスプレイ25に図3に示す如き顧客情報の入力画面が表示される。この顧客情報の入力、売手・買手を特定し、査定担当者、査定年月日（例えば、平成8年2月2日）を特定するためのもので、入力装置24によって入力を行い、この入力データはRAM22に格納される。次に入力装置24を操作して予めROM21に記憶されている製造メーカー名（トヨタ、ニッサン、三菱、ベンツ、BMW等の車の製造販売を行ったメーカー）を読み出してディスプレイ25に図4に示す如く一覧表示する（本実施の形態においては、国産カーメーカーのみが示されている）。この一覧表示された製造メーカー名の中から入力装置24を操作して査定対象車の製造メーカー名（例えば、トヨタ）を選定する。製造メーカーの選定を行うと、CPU20の

動作によってROM21に予め記憶されている特定した製造メーカーの車種タイプをディスプレイ25に図5に示す如く一覧表示する。図5ではトヨタ車の一部のみを表しているが、この他コローナ、カリナ、MR2、カローラ等がある。この一覧に表示された車種タイプの中から査定対象車と同一の車種タイプ（例えば、クラウン・4ドアハードトップ）を入力装置24によって選定する。

【0030】査定対象車の車種タイプを選定すると、CPU20の駆動によってディスプレイ25に図6に示す如く、処理条件の選択画面が表示される。処理条件として入力装置24によって入力するのは、初年度登録年月日（査定対象車の登録年月日）、ミッション（オートマか、マニュアルか）である。この初年度登録年月日（査定対象車の登録年月日）、ミッション（オートマか、マニュアルか）を入力装置24で、例えば、初年度登録：平成6年2月2日、ミッション：オートマを入力すると、査定対象車の年式（平成6年1月発売）及び車検の残存期間（無し）が決定する。

【0031】査定対象車の車種タイプを選定（例えば、トヨタ・クラウン・4ドアハードトップ）すると、査定対象車と同一の車種タイプについて、査定対象車の発売された年月の各種グレードが図7に示す如く一覧表示される。図7ではグレードの一部（6種類）のみを表しているが、平成6年1月発売のトヨタ・クラウン・4ドアハードトップには、この他RツーリングS、Rサルーン、Sセレクトなど全部で12種類ある。この一覧に表示されたグレードの中から査定対象車と同一のグレード（例えば、RサルーンG）を入力装置24によって選定する。

【0032】このように査定対象車の製造メーカー名、車種タイプ、初年度登録年月日及びミッション、グレードの選定を行うと、CPU20の動作によって、図8に示す如く、査定対象車の主要諸元をディスプレイ25に表示する。主要諸元というのは、製造メーカー名（例えば、トヨタ）、車種タイプ（例えば、クラウン、4ドアハードトップ）、発売年月日（例えば、平成6年1月）、排気量（例えば、3000cc）、エンジン種類（例えば、DOHC）、燃料供給装置（例えば、EFI）、駆動装置（例えば、2WD）、ドア数（例えば、4ドア）、グレード（例えば、RサルーンG）、形式（例えば、E-JZS145）、定員（例えば、5人）、ミッション（例えば、4A；フロア4速オートマチック）、新車価格（例えば、4185千円）等である（他に、過給器、屋根形状がある）。

【0033】ディスプレイ25に表示される図8の如き査定対象車の主要諸元を確認し、入力装置24によって確認の入力を行うと、CPU20が動作して、図9に示す如く、査定対象車と同一車種タイプの車として発売された当時の各種ボディーカラーが一覧表示される。この

図9に示される平成6年1月に発売されたトヨタ・クラウン4ドアハードトップのボディーカラーは、ウォームグレーパールマイカ（通称、グレーパール）、シルキーエレガントトナー（通称、シルキーホワイト）、スーパーホワイト（通称、ホワイト）、ダークフォレストトナー（通称、ダークグリーンツートン）、ダークブルーイッシュグレーメタリック（通称、ダークブルーメタリック）、ダークブルーマイカフタロシアニン（通称、ダークブルー）、ブラック（通称、ブラック）の7種類である。

【0034】この一覧表示された各種ボディーカラーの中から査定対象車のボディーカラー（例えば、スーパーホワイト）を入力装置24によって選択入力する。車のボディーカラーは、同じ車種タイプ・グレードであっても人気の度合いが異なり、売れ行を左右する要素となっており、中古車市場における需要度に大きな影響を与えている。そこで、一覧表示された各種ボディーカラーの中から査定対象車のボディーカラー（例えば、スーパーホワイト）を選択入力すると、同一のメーカー・車種タイプ・年式・グレードについて、各ボディーカラー別に予めROM21に記憶されている基本査定価格の中から査定対象車のボディーカラーに対応した基本査定価格が決定される。この査定対象車のボディーカラーを選択入力すると、CPU20が駆動し、図10に図示の如く、査定対象車（現車）の情報入力表がディスプレイ25に表示される。

【0035】図10に図示の現車情報入力表の入力項目には、車検満了日、現車走行距離の他、各種評価項目がある。車検満了日（平成8年2月2日）は、初年度登録年月日（平成6年2月2日）に対して、査定対象車に車検期間が残っている場合の車検満了日のことである（図10では、車検期間が残っていないことを示している）。走行距離は、査定対象車が査定時までに行走した総走行距離の実走行距離である。このように実走行距離を査定対象車の査定に加味するのは、車には各車種のそれぞれにおいて独自の平均走行距離があり、この平均走行距離に対して査定対象車が少走行であれば車の傷みは少ない筈であるし、平均走行距離に対して査定対象車が過走行であれば車の傷みは多い筈であるからである。図10においては、査定対象車の総走行距離は、15000Kmとなっている。

【0036】査定対象車の評価は、使用期間（年式）、使用頻度（総走行距離）、汚損・破損の度合（外観上の評価、内装の評価、タイヤの摩耗評価、事故歴評価、機関足回りの評価）、車両の特別仕様構成状況（特別仕様評価）等が中心になる。図10における各種評価項目には、外観上の評価、内装の評価、特別仕様評価、タイヤの摩耗評価、事故歴評価、機関足回りの評価、その他の評価がある。外観上の評価は、査定対象車の外観に関する評価で、

- ①ボディーの破損（ボディーの破損状態を示す）
- ②ボディーの塗装（ボディーの塗装の良否の状態を示す）
- ③下回りの腐食（ボディーの下回りに腐食の有無・大小）
- ④ガラス関係（ガラスに傷・ひび割れ・欠損等の破損の有無）
- ⑤電装関係（パーキングランプが点滅しない等）
- ⑥室内の汚れ（染み付いてとれない等）
- ⑦トランクの汚れ

の減額評価で金額で表示されている。図10においては、全て0円の評価がされている。

【0037】特別仕様評価は、本来当該査定対象車に標準装備として組み込まれていない特別の装備がなされている場合で、通常は増額評価であるが、特別装備の内容によっては減額評価の場合もあり、金額で表示されている。図10においては、全て0円の評価がされている。この特別仕様評価には、

- ①アルミホイール
- ②オーディオ関係（カーTVが装備してある等）
- ③カーナビゲーション
- ④ドレスアップ

がある。タイヤの摩耗評価は、査定対象車の挿着されているタイヤ4輪のそれぞれの減り具合（山の高さによって評価）、スベアタイヤの減り具合による評価で、減額評価で、分山の単位で表示されている。図10においては、査定対象車の挿着されているタイヤ4輪のいずれも5分山の評価、スベアタイヤについては10分山の評価がされている。事故歴評価は、過去に事故を起しているか否かの評価で、機関足回りの評価は、ブレーキが甘い等の評価でいずれも減額評価で金額によって表示されている。図10においては、いずれも0円の評価がされている。

【0038】これら車検満了日、現車（査定対象車）走行距離、各種評価項目の入力が完了し入力装置24を操作すると、CPU20が演算を開始し、その演算結果を図11に示す如くディスプレイ25に表示する。すなわち、車検満了日については、車検残存期間がないので評価加算額はない。また、現車（査定対象車）走行距離については、入力された実走行距離（現車走行距離）と、査定対象車と同車種タイプの標準走行距離とを比較して、査定対象車の走行距離が、査定対象車と同一の車種タイプの標準走行距離と比較して、少ない場合には予め設定されている少走行時の単位距離当りの加算額を、多



い場合には予め設定されている過走行時の単位距離当りの減算額を算出するようになっている。図11においては、査定対象車の総走行距離が15000Kmで、標準走行距離24450Kmに対し、9450Kmの少走行で、少走行距離による評価加算額は113000円である。

【0039】その他タイヤの摩耗評価は、スペアタイヤが10分山で評価損0円であるが、査定対象車の挿着されているタイヤ4輪のいずれも5分山で減額評価となっており、全体のタイヤの摩耗評価は、評価減算額として28000円となっている。これらの全ての金額を査定対象車のボディーカラーに基づいて決定された基本査定価格に加減算してディーラー査定価格を求める。この求めた金額が確定下取り査定価格（ディーラー査定価格）で、図11においては、総額で、1,925,000円となっている。したがって、本実施の形態によれば、データの入力を間違いなく、正確に行うことにより、誰にでも簡単に短時間で適正なディーラー査定価格を算出することができる。

【0040】

【発明の効果】請求項1記載の発明によれば、誰にでも簡単に短時間で適正なディーラー査定価格を算出することができる。

【0041】請求項2記載の発明によれば、ディーラーに持ち込まれた査定対象車のメーカー名、車種、タイプから予め記憶されている基本査定価格を決定し、査定対象車の処理条件、グレード、ボディーカラー、走行距離等の査定対象車の現況を示す諸データを入力するだけで基本査定価格を修正して適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0042】請求項3記載の発明によれば、ディーラーに持ち込まれた査定対象車の年式、ミッションを特定することができる。

【0043】請求項4記載の発明によれば、ディーラーに持ち込まれた査定対象車の現況を正確に把握することができ、査定対象車の現況に基づく適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0044】請求項5記載の発明によれば、ディーラーに持ち込まれた査定対象車の使用環境を正確に把握して、査定対象車の使用環境に基づく適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0045】請求項6記載の発明によれば、ディーラーに持ち込まれた査定対象車の車室内の使用状態を正確に把握して、査定対象車の車室内の使用状態に基づいた適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0046】請求項7記載の発明によれば、ディーラー

に持ち込まれた査定対象車の使用程度を正確に把握して、査定対象車の使用程度に基づく適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0047】請求項8記載の発明によれば、ディーラーに持ち込まれた査定対象車の使用環境を正確に把握して、査定対象車の使用環境に基づく適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0048】請求項9記載の発明によれば、ディーラーに持ち込まれた査定対象車の車室内の使用状態を正確に把握して、査定対象車の車室内の使用状態に基づいた適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0049】請求項10記載の発明によれば、ディーラーに持ち込まれた査定対象車のアルミホイールか否か、オーディオ関係の高級化、カーナビゲーションの有無、ドレスアップの有無を正確に把握して、査定対象車の特別仕様状態に合った適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る中古車の評価査定価格の処理方法の実施の形態を示す処理フローチャートである。

【図2】本発明に係る中古車の評価査定価格の処理装置の実施の形態を示す基本ブロック図である。

【図3】顧客情報入力図である。

【図4】製造メーカー名の一覧表示図である。

【図5】選定した製造メーカーの車種タイプの一覧表示図である。

【図6】選定した車種タイプにおける処理条件を選定するための図である。

【図7】処理条件内におけるグレードを一覧表示した図である。

【図8】現車主要諸元の表示図である。

【図9】選定した車種タイプの各種ボディーカラーを一覧表示した図である。

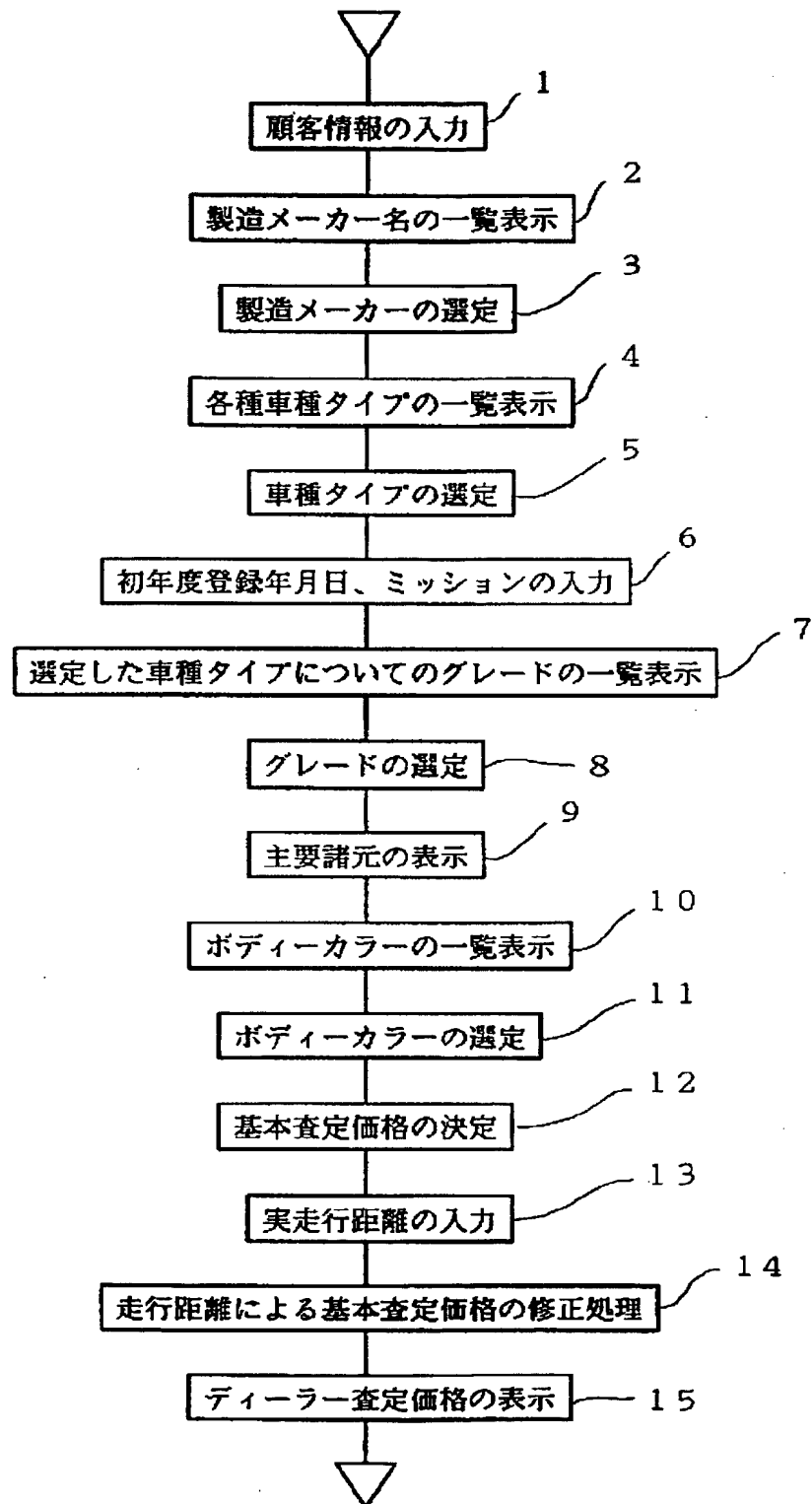
【図10】現車情報を入力するための図である。

【図11】演算した結果の確定下取り査定額を表示した図である。

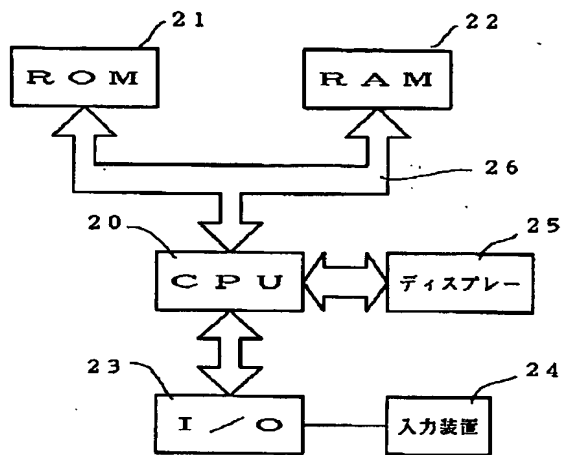
【符号の説明】

20	.....	CPU
21	.....	ROM
22	.....	RAM
23	.....	I/O
24	.....	入力装置
25	.....	ディスプレイ
26	.....	バスライン

【図1】



【図2】



【図4】











メーカーの選択	
	トヨタ
	ニッサン
	マツダ
	三菱
	いすゞ
	ホンダ
	スバル
	ダイハツ
	スズキ

顧客情報の入力

顧客名	日本自動車情報サービス
顧客住所	東京都新宿区新宿7-22-45
顧客電話番号	03-3350-1350
査定拠点名	東京都新宿区買取センター
査定拠点電話番号	03-3350-1350
査定日付	8年2月2日
査定担当者	小栗 浪漫
査定区分	1 ( 1. 下取り 2. 買取 )
担当区分	3 ( 1. 本部 2. 支部 3. 支店 4. 営業所 5. ショールーム )

【図3】

【図5】

車種タイプの選択		
メーカー名	車 種 名	タイプ名
	センチュリー	
	セルシオ	セダン
	マジェスタ	4ドアハードトップ
	クラウン	4ドアハードトップ
	クラウン	セダン
	クラウン	ワゴン
	アリスト	セダン
	ソアラ	
	スープラ	
	スープラ	エアロトップ

【図6】

処理条件の選択		
メーカー名	車 種 名	タイプ名
トヨタ	クラウン	4ドアハードトップ







  

初年度登録	[ 6 ] 年	[ 2 ] 月	[ 2 ] 日
-------	---------	---------	---------

ミッション	[ 1 ] ( 1. オートマ 2. マニュアル )
-------	----------------------------

【図7】

グレードの選択									
トヨタ	クラウン	4ドアハードトップ	6	年	1	月	発売		
グレード	エンジン	駆動	ドア	定員	屋根形状				
	型式	装備	通給機						
	RサルーンG マルチV	3000 DOHC EFI	2WD	4ド7	5				
		E-JZS145	PS. PW						
	RサルーンG	3000 DOHC EFI	2WWD	4ド7	5				
		E-JZS145	PS. PW						
	Rサルーン マルチV	3000 DOHC EFI	2WWD	4ド7	5				
		E-JZS143	PS. PW						
	Rサルーン	3000 DOHC EFI	2WWD	4ド7	5				
		E-JZS143	PS. PW						
	Rツーリング マルチV	3000 DOHC EFI	2WD	4ド7	5				
		E-JZS143	PS. PW						
	Rツーリング	3000 DOHC EFI	2WD	4ド7	5				
		E-JZS143	PS. PW						

【図8】

現車主要諸元の表示	
メーカー名	トヨタ
車種	クラウン
発売年月	平成 年 月
グレード	4ドアハードトップ
排気量	3000 cc
エンジン種類	DOHC
燃料供給装置	EPI
過給機	
駆動装置	2WD
ドア数	4ドア
屋根形状	
型式	E-JZS145
定員	5
ミッション	4A 7074選オートマチック
新車価格	4185 千円
類別区分	003

【図9】

ボディカラーの選択			
<input type="text" value="トヨタ"/>	<input type="text" value="クラウン"/>	<input type="text" value="4ドアハードトップ"/>	<input type="text" value="6"/> 年 <input type="text" value="1"/> 月 発売
<input type="text" value="選択色名"/>		<input type="text" value="正式色名"/>	
	ウォームグレーパールマイカ	グレーパール	灰黒
	シルキーエレガントトローニングⅡ	シルキーホワイト	銀Ⅱ
	スーパーホワイトⅡ	ホワイト	白
	ダークフォレストトローニング	ダークグリーンツートン	濃緑Ⅱ
	ダークブルーイッシュグレーメタリック	ダークブルーメタリック	青黒
	ダークブルーマイカフクロシアニン	ダークブルー	紺
	ブラック	ブラック	黒



【図10】

## 現車情報の入力

現車の状況		登録番号		練馬33 3333	
車体番号	888888	初年度登録日	6	年	2
ミッション	オートマ車	車検満了日	0	年	0
A/C有無	1 ( 1.有 2.無 )	現車走行距離	15000	Km	
S/R有無	2 ( 1.有 2.無 )				

各種評価項目		アルミホイール		0		円
外観上の評価	ボディの破損	0	円	オーデイオ関係	0	円
	ボディの塗装	0	円	カーナビ等	0	円
	下回りの腐食	0	円	ドレスアップ等	0	円
	ガラス関係	0	円	その他	0	円
	電装関係	0	円			
	その他	0	円			
		タイヤの摩耗評価				
		右前	5	分山	左前	5
		右後	5	分山	左後	5
		スベア-タイヤ		10		分山
		その他の評価額		0		円
		機関足回りの評価		0		円
		事故歴評価額		0		円
内装の評価		シートの破損		0		円
	インパネ関連	0		0		円
	電装関係	0		0		円
	室内の臭い	0		0		円
	トランクの汚れ	0		0		円
	その他	0		0		円

【図11】

確定下取り査定額の表示										
現車の評価		車体番号	88888888	登録番号	練馬り33 3333					
ミッション		オートマ車		初年度登録日	6	年	2	月	2	日
A/C有無		(有り)		車検満了日	0	年	0	月	0	日
S/R有無		(無し)		走行距離	15000	Km				
				9450	Km	少走行です				
各種評価項目		外観上の評価		特別仕様の評価						
ボディの破損		0	円	アルミホイール	0	円				
ボディの塗装		0	円	オーディオ関係	0	円				
下回りの腐食		0	円	カーナビ等	0	円				
ガラス関係		0	円	ドレスアップ等	0	円				
電装関係		0	円	その他	0	円				
その他		0	円							
内装の評価		シート破損		0	円	タイヤの摩耗評価	-28000	円		
インパネ関連		0	円	事故歴評価額	0	円				
電装関係		0	円	機関足回りの評価	0	円				
室内の臭い		0	円	その他の評価額	0	円				
トランクの汚れ		0	円							
その他		0	円							
						確定下取り査定価格		1,925,000		円